

専齋 SENSAL



院長年頭所感
幹部職員 新年の抱負
年男・年女の今年の抱負

撮影:大塚崇子(企画課)

長與 専齋 (1838年~1902年)

大村藩御殿医の家系に生まれる。緒方洪庵の適塾に学び、福澤諭吉の後を襲い塾頭となる。初代衛生局長として我が国の近代医療制度の確立に尽力した。衛生という言葉をはじめ採用したのも専齋である。専齋の生家は「宜雨宜晴亭」と呼ばれ、長崎医療センター敷地内に移築されている。

院長年頭所感

平成29年 年頭所感 — 地域医療構想と長崎医療センター —

病院長 江崎 宏典



新年おめでとうございます。皆様にはつつがなく新しい年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年のあいさつの中でも「地域医療構想」について簡単にふれましたが、これからの医療提供体制を語る上でのキーワードであり、また長崎医療センターの今後進むべき方向を探るうえで欠かせないことですので、一緒に考えてみたいと思います。

いわゆる団塊の世代が全て75歳以上の後期高齢者となる2025年に向けて、医療や介護といった社会保障制度を維持できるように体制を整備していくことが求められています。そのために「医療介護総合確保推進法」が2014年に公布され、順次施行されています。法律では都道府県が「地域医療構想」を策定して効率的かつ効果的な医療提供体制を構築すること、また医療と介護が一体となった「地域包括ケアシステム」を確保することを求めています。

これを踏まえて長崎県でも様々な検討が行われ、昨年11月に「長崎県地域医療構想」の策定が完了しています。その構想の中には2025年における2次医療圏ごとの医療需要の推計と必要病床数が記載されています。それによりますと長崎医療センターが属する県央医療圏の2025年における一般病床の必要病床数は3557床であり、現状の4490床からすると約1000床も過剰ということになります。病床機能別（高度急性期、急性期、回復期、慢性期）

にみると急性期が751床過剰（1813床→1062床）で、回復期は490床不足（502床→992床）と推計されています。本年からは地域において将来過不足が予想される病床をどう調整し、再構築していくのか、具体的には急性期から回復期へどう転換していくのかが議論されていくことになります。必要病床数という形でゴールは示されましたが、それを達成するのは相当ハードルが高いと言わざるを得ません。

地域医療構想の基本は医療機関の機能分化（高度急性期、急性期、回復期、慢性期）と連携です。従ってそれぞれの医療機関は将来にわたってどのような役割（機能）を担いたいのか、そしてそれは地域から求められ、期待されているものなのかをしっかりと考える必要があります。

長崎医療センターが目指す将来像は今と同様に急性期医療の提供であり、地域からもそれを期待されているものと考えています。職員一同、質の高い急性期医療を提供するという使命を共有し、進んでいきたいと思えます。またそれを可能にするためにも地域との連携をこれまで以上に強化していく必要があります。

昨今の医療を取り巻く環境、例えば社会保障関係費の抑制、医療の質や安全への要求等は厳しいものがあり、医療者の負担も増加しています。厳しい環境にはありますが、健全な病院運営に向けてこれからも力を合わせて頑張っていきたいと思えます。ご協力をよろしく願います。

新しい年が素晴らしい年であることを願って、年始のあいさつとさせていただきます。

長崎医療センターの使命

長崎医療センターは以下の活動を誠実にを行い、地域拠点病院として住民と医療機関からの信頼を得る。

1. 安全で質の高い医療を提供する
2. 絶対に断らない救急医療の最後の砦となる気概を持つ
3. 地域の医療機関、行政と密接に連携する
4. すべての医療人と学生に魅力的な教育研修を提供する
5. 臨床研究を推進し、国際医療協力に貢献する
6. 健全な経営基盤を確立する



新年の抱負(幹部職員)



新年のご挨拶

副院長 藤岡 ひかる

新年明けましておめでとうございます。
今年も職員の皆さんにとって素晴らしい
年であることをお祈りいたします。

昨年暮れからお正月にかけて多くの救急患者さんや
入院中の患者さんの治療や看護にお忙しかった方も多
かったことと思います。ご苦労様でした。

さて、昨年は当院にとっては20年ぶりくらいになる『医

科特定共同指導』を受けました。職員の皆さんが一致
団結して取り組んで頂き、長崎医療センターの底力を示
すことができました。誠にお疲れ様でした。

病院運営については、厚労省が進める地域医療構想
をもとにした機能分化に向けて、種々の改革が必要と考
えられ決してばら色とは言えません。しかし、長崎医療
センターの先達が示してきた”NMC power”を発揮して、
今年も乗り切って行きましょう。

本年もどうぞ宜しくお願いいたします。



100年ライフ

臨床研究センター長 八橋 弘

私の外来に通院中の80歳代の女性
のC型肝炎の患者さん、同じ歳の女
友達と週1回ゴルフに行くという。スコ
アは80台。12週間の内服治療でウイルスが消え、最
近飛距離が伸びたという。

今、話題の本(ライフシフト)によると、2050年日本
の百歳以上の人口は百万人を突破し、今8歳の子供

の平均寿命は105歳、20歳の人は100歳になるという。
生活習慣を整え内臓脂肪を減らすこと、生涯学習と自
己改革を重ねながら健康寿命を延ばすこと、80歳頃ま
で仕事し社会貢献を続けること、これらが100年ライフ
の条件となりそうだ。

百歳まで生きることを前提に、社会と医療の在り方を
考える時と思う。ちなみに現在百歳以上の長寿者の
87%は女性である。



新年の抱負

事務部長 米田 國治

新年あけましておめでとうございます。
みなさんは初詣には行かれたでしょうか。

お正月を祝う日本の風習も、家ご
とにしきたりが受け継がれ、その迎え方も違うようです。
伝統文化は、その時代や環境により変化しながら、長
い時間をかけて作り上げられてきました。

当院も長崎中央病院時代から受け継いだ伝統として
の強みをいかに継続させ、より強固なものにしていかな
ければなりません。そのためには、周りの環境が急速に
変化していく中で、古いしがらみや環境に適さない体制
や考え方は、刷新していかなければなりません。いかに
して、長崎医療センターというブランドを新しいものと融
合させその価値を高めていけるかが重要だと考えていま
す。大切な一年にしたいものです。



新年の抱負

看護部長 杉原 三千代

新年明けましておめでとうございます。
昨年は、6月に特定共同指導に向け
てのキックオフから、その準備にと慌た
だしい一年だったように思います。いろいろと指摘事項
はありましたが、乗り切ってしまうと、前向きに
捉えております。平成30年には診療報酬と介護報酬ダ

ブル改訂が控えています。大きな改訂になると予想され
ますが、その準備を皆さまのご協力を得ながら、改善す
べきところは改善すべく取り組んでいきたいと考えており
ます。今年(丁酉(ひのととり))、『仕事や挑戦してきた
ことへの結果や果実を勝ち取る』ことができる年。個人
的には、機構での勤務にも先が見えてきました。きちん
とした仕事の締めくりができるよう励んでいきたいと思
います。皆様にとってもいい年になるよう願っております。



年男・年女の今年の抱負

内分泌・代謝内科医長 藤田 成裕

年を追うごとに、時がたつのが早いことを実感しております。色々と取り組みを行うつもりでいたこともあつという間に過ぎてしまい、何もできない状態で来ました。今年は行程をしっかり立てて、取り組んでいきたいと思ひます。地域の皆様の糖尿病管理が問題なく進めるようなシステム作りを行います。糖尿病診療を通じて院内、院外の医療関係者、患者の皆様、ご家族にお役に立てるように頑張ります。

精神科医師 橋口 知幸

日々を漫然と過ごしている私には若干似つかわしくない気もしますが、抱負を述べる機会を頂きましたので少し思いを巡らせてみたいと思ひます。

旧年中は周囲の方の支えもありながら何とか恙なく日々の診療を行っていたのではないと思ひます。今年も平穩無事に患者さんに寄り添った診療を一日ずつ積み重ねる事が出来ればと思ひています。プライベートでは最早趣味と呼べない程に遠ざかってしまっている写真や釣り、音楽などに再度挑戦したいと思ひます。本年も何卒宜しくお願ひ致します。

視能訓練士 田村 歩

新年明けましておめでとうございます。

視能訓練士の田村 歩と申します。今年は何年。私も無事に三度目の年男を迎えました。「酉」という字は「成熟」や「実り」の意味があるそうです。私も長崎医療センターに入職して十年以上経ち、視能訓練士として成熟した実りある節目の年にしたいと思ひています。今年も全力で業務に取り組むたいと思ひますのでご指導のほどよろしくお願ひいたします。

看護師 堤 汐里

新年明けましておめでとうございます。

2回目の年女、看護師としてはあつという間に4年目を迎えます。病棟での仕事にも徐々に慣れ、沢山の方に支えて頂いてここまで乗り越える事が出来ました。にわとりには武士が備えるべき5つの徳（知・信・仁・勇・厳）を備えているといわれるそうです。私も自分に厳しく、仕事もプライベートでも新しい事に挑戦する気持ちを持ちたいです。日々、五感を使い看護をすることで細かい所にも気付ける看護師を目指します。

助産師 岩永 恵子

長崎医療センターに来て早2年が経とうとしています。今年で助産師になって14年目となりました。分娩は毎回緊張の連続ですが、医師やスタッフとの連携を大切に安全に行えるように心がけています。また、新人の頃から母乳育児について興味があり、日々勉強してきました。当院はBFH認定施設で、母乳育児の確立と完全母乳率の上昇に向けて今年も日々努力していきたいです。プライベートでは母として料理を頑張る年にしたいです。

事務部企画課契約係 木寺 和

新年明けましておめでとうございます。

無事に2回目の年男を迎えることができ嬉しく思ひます。

早いものでもう産まれて24年。元気よく走り回っていた学生時代がついこの間のように、気付けばもう体が追いつかなくなってまいりました。

2年目に入る病院の「事務」という仕事ですが、すごくやりがいを感じる仕事です。まだまだ未熟ではありますが、医師をはじめ、看護師、メディカル含め病院全体の支えになるように、これからも日々精進していきたいと思ひております。そして自分自身、この仕事を通して立派な大人へ成長していきたいと思ひます。

最後になりますが、昨年はたくさんの方々へ大変お世話になりました。今年もどうぞよろしくお願ひいたします。



新年のご挨拶

広報戦略委員会委員長 小森 敦正

皆様、新年明けましておめでとうございます。本年もよろしくお願ひ申し上げます。

当院広報誌SENSAIは、本年も新たな企画を取り入れながら、充実した、読んでよかったと感じて頂ける紙面作りを目指していきます。職員の皆様、当院OBの皆様、読者の皆様方のご協力を何卒、よろしくお願ひいたします。